

幼 兒 の 教 育

昭 和 九 年 三 月

子 ども 達 の 顔

この子きも達の顔が、おきになつてきんなに變るだらうか。この顔に髻をつけて見、この顔に髪をいつて見るのは、想像のいたづらがさせる楽しい興味である。しかも、この美しい貴い顔が、いつまでこのまゝでゐて呉れるかと思ふき、かすかなさびしさが湧かないでもない。

この眼よ、いつまでも惑ひに濁らずにゐ、この唇よ、いつまでも偽りに歪まずにゐて呉れ。この頬よ、いつまでも明朗の輝きを褪せさせずにゐ、この額よ、いつまでも潤達の伸びやかさを失はずにゐて呉れ。

わたしは、子きも達の顔をもう一度ぢつと眺めて、いつも、今のこの顔のまゝで、この一人々々を覺えてゐたいと祈らずにゐられない。